

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1590300206
法人名	社会福祉法人 松涛会
事業所名	グループホーム四季
所在地	新潟県上越市大字今泉字西蓮池1310-9 (電話) 025-522-8805

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 21 年 8 月 20 日

【情報提供票より】(21 年 6 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 17人、非常勤 0人、常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階 建ての 1 階 部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月あたり	50,000 円		

(4) 利用者の概要 (21 年 6 月現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	74 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上越地域医療センター病院、小林歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム四季」は、雄大な妙高山山麓が見渡せる自然が豊かな環境にある。木造平屋建てのどっしりとした建物が環境に良く馴染んでいる。利用者の居室はすべて南側にあり、それぞれの居室から妙高山麓の四季おりおりの自然を眺めることができる。玄関横の畑では、利用者職員が育てた野菜が実っており、散歩しながら、世話をしたり収穫したりすることができる。利用者職員はともに助け合い協力をして活力ある生活を営んでいる。すぐ裏手には協力病院があり、また、敷地内には同法人の介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業が運営されており、連携・協力体制ができています。利用者、職員の日々の暮らしにはゆったりとした時間が流れていて、昼食後、玄関横の庭で妙高山を眺めながら食後の一服をする男性の利用者の姿から、ここの生活の自由と満足感がうかがえた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今度が初回のサービス評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、計画作成担当者、ユニットリーダーなどが協力して自己評価を行った。今後は評価の結果を受けて、より質の高いサービス提供を目指し、具体的な改善に取り組んでいく予定である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月の1回の頻度で行われている。事業所の理念や取り組みの状況、行事活動、サービス評価の意義などについて報告している。委員と職員との意見交換を行い、そこで出された意見などをサービスの質の向上に役立てている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族に対しては、個々に面接した時など、積極的に意見を聞いている。玄関先には意見・苦情箱を設置して、自由に意見、苦情などを言ってもらえるようにしている。また、第三者への苦情表明についても契約時などに説明をしている。家族からの意見・苦情は、サービス向上のため運営に反映させるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 夏祭りや賽の神のなどの地域行事に呼んでもらい、地域の方々との交流している。散歩などの時も、挨拶などを通じて交流に努めている。また、運営推進会議などを通じて町内の方々等に災害時の協力についても働きかけを行っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者、管理者、職員皆で話し合い、事業所独自の理念を作り上げた。四季の自然を感じながら、住み慣れた地域でその人らしく暮らしていけるようにとの思いが込められた理念である。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで職員全員で理念を唱和し、共有に努めている。四季おりおりの季節を利用者とともに感じながら、ふれあいを大切に、ともに日々を暮らしていくという実践が行われている。		
		家族や地域への理念の浸透			
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には面接時や契約時などにパンフレットなどを通じて説明したり、地域住民の方々には内覧会時や広報紙を回覧板で回してもらうなどして、理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや賽の神などの地域行事に呼んでもらい、地域の方々との交流している。散歩などの時も、挨拶などを通じて交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、計画作成担当者、ユニットリーダーなどが協力して自己評価を行った。今後は、評価の結果を受けて、より質の高いサービス提供を目指し、具体的な改善に取り組んでいく予定である。		今回は、外部評価が初回ということもあり、ユニットリーダー、管理者等によって自己評価票の作成が行われたが、今後は、職員全員に対して自己評価、外部評価の意義を十分伝えた上で、職員全体でサービス評価に取り組んでほしい。
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月の1回の頻度で行われている。事業所の理念や取り組み状況、行事活動、サービス評価の意義などについて報告している。委員と職員との意見交換を行い、そこで出された意見などをサービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、運営推進会議には市町村担当者は参加していないが、地域包括支援センター職員より参加してもらい、意見やアドバイスを頂いている。その他、利用者に有益な福祉サービスの利用や活用などについて、市町村に出向いて相談に乗ってもらいながら市町村との連携に努めている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、どんなことが虐待にあたるのか、予防のための方法などについて職員で考え、意識の統一を図っている。普段より、言葉の虐待はないか職員皆で意識し注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、家族が来所された折に個々に報告するよう努めている。頻繁に来られない家族に対しては、広報などを通じて伝えるようにしている。職員の異動などについても広報などで随時伝えるようにしている。		頻繁に面会にこれない家族にとって、利用者の暮らしぶりや健康状態の定期的報告は、事業所の思いやり、暖かさを感じるものである。遠方において面会に来ることが難しい家族等にも、定期的に暮らしぶりや健康状態について報告するよう努めてほしい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しては、個々に面接した時など、積極的に意見を聞いている。玄関先には意見・苦情箱を設置して、自由に意見、苦情などを言ってもらえるようにしている。また、第三者への苦情表明についても契約時などに説明をしている。家族からの意見・苦情は、サービス向上のため運営に反映させるよう努めている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、随時の職員会議など、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員に対するアンケート調査を実施し、会議の場では言いにくい意見や提案を聞くよう努めた。それらの意見や要望はサービスの質の向上や運営に活かしていくよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者と職員はなじみの職員が利用者に関わる大切さを十分理解しており、職員が代わる場合は、職員間の引継ぎや利用者への挨拶などを丁寧に行い、利用者へのケアが途切れたり、利用者がストレスを感じることはないよう努めている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各種マニュアルが作成され、それぞれのユニットごとに職員が見やすい場所に設置され、周知が図られている。マニュアルは、適宜、各委員会によって見直しが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に適宜参加し、職員の質の向上に努めている。新人の職員などには年間を通した研修プログラムはないが、管理者が1対1で適切に指導を行っている。管理者は、職員の希望する研修にはできるかぎり参加できるよう勤務調整などの配慮を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設当時の研修で、職員は市内のグループホームで実習を行い、地域の同業者から学ぶ機会を作った。それらの事業所とは現在も情報交換などを通じてやり取りが続いている。また、県のグループホーム協会に入会し、研修会などを通じて、ネットワーク作りや意見交換に努めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年間126日の公休を設け、職員のストレス軽減に努めている。休憩室の確保など、環境面にも配慮がなされている。また、管理者は職員の心身の様子に気を配り、気軽に声をかけて話を聞き、悩みや負担の軽減に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し納得してサービス利用ができるよう、家族とも相談しながら、管理者等が何度も本人に会いに行ったり、本人からホーム見学に来てもらうなどして、馴染みの関係づくりの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという気持ちを職員で共有している。畑仕事や料理などを教えてもらったり、一緒に行ったりと共に支えあう関係作りに努めている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを聞いたり、本人の生活の様子を密に伝えたりしながら、職員と家族が協力して本人を支えていく関係作りに努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とその日その日を共に暮らしながら、その都度、意向や希望を確認するよう努めている。どんなことが好きか嫌い、どんなことに喜ぶのかなど、本人の言葉や様子から推測するようにしている。また、家族や関係者からの情報も大切にしている。		職員それぞれは利用者の思いや意向は把握に努めているが、その記録は十分ではない。職員全員で情報を共有し、ケアに活かしていくために、例えばセンター方式のアセスメント用紙の一部を活用するなど、さらなる取り組みが期待される。
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりをより良く理解し、これからの生活をより良く支援するために、本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過などの情報を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との日頃からのかかわりの中で、希望や思いを把握し、介護計画に反映させている。アセスメントは各利用者の担当職員が行い、ユニットリーダー、計画作成担当者、管理者など職員皆で意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回は職員全体で介護計画の評価を行い、6ヶ月に1回、定期的の見直しを行っている。利用者の状況変化により現在の介護計画では対応できない場合は、家族、医師とも相談したうえで、速やかに現状にあった新たな介護計画に変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、希望などに応じて、利用者のためになる機能や支援を意識しながら柔軟に対応している。必要に応じて受診に付き添ったり、主治医からの往診をしていただけるよう配慮している。薬局から薬を届けてもらうなどの仕組みも作った。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、必要に応じてかかりつけ医が往診してくれる体制であり、事業所とかかりつけ医とは良好な関係を築いている。必要時は職員が受診の付き添いも行い、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の場合については、事業所のできることを伝えながら本人や家族の意向を大切にしている。家族とかかりつけ医、事業所とで繰り返し良く話し合い、どこでどのように最期を迎えるのか、チームとして支援方針を共有するようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録などの個人情報は鍵のかかる棚で適切に管理している。排泄介助や入浴介助の場面では他者に聞こえないよう本人の耳元で言葉かけするなど、利用者のプライドやプライバシーに配慮した言葉かけを行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の希望や気分によって散歩に出かけたり、買い物に出かけたりと、その人のペースや意向を大切に支援を行っている。		職員側の決まりや都合が優先されているわけではないと思うが、事業所のパンフレットに示されている日課票を見ると、起床、自由時間、入浴、就寝などと時間が設定され、利用者の生活が管理されているような印象を受ける。利用者の生活の支援を行う事業所として日課票が必要かどうかも含め、利用者や家族の視点から、日課票の持つ意味や生活のあり方を改めて職員全体で考えてほしい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者と職員と一緒に食べ、料理の内容や食材の話題等を提供しながら楽しい時間になるよう努めている。利用者の意欲や力に応じて準備や後片付けを職員と一緒にいき、手伝ってくれた利用者に対しては感謝の気持ちを伝えている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の排泄パターンや能力を把握して、失敗を減らせるよう必要な声かけや誘導を行っている。利用者のプライドやプライバシーに配慮した声かけが行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全体の業務の都合もあり、現在は週2回から3回の頻度で入浴を行っている。利用者1人に対して職員1人がつき、マッサージ等を提供しながら、ゆっくり気持ちよく入浴できるよう支援している。		現在、入浴回数は週に2回から3回となっているが、重要事項説明書には毎日入浴することができることと記載されている。利用者の希望を再確認して、毎日の入浴の可能性について再度検討してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの好みや希望に合わせて、ドライブや散歩に出かけたり、買い物に行ったりしている。利用者それぞれの力を活かし、食事作り、後片付けなどにも積極的に関わってもらっている。その都度、職員から感謝の言葉を伝え、日々の張り合いとなるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に沿って、ドライブ、買い物、散歩など屋外に出かけられるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で身体拘束防止に関するマニュアルを作成し、職員全体で具体的行為などについて理解を深めるよう努めている。「だめ」や「少し待ってて」などの言葉かけもしないよう職員間で注意し合い、身体拘束や行動制限をしないケアの実践に積極的に取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が日中鍵をかける弊害を理解しており、日中に鍵をかけることはない。帰宅願望が強い利用者に対しても、職員が1対1で見守りを行うなどの対応が行われており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書をその都度作成し、再発防止策の検討を行うカンファレンスを実施するとともに、報告書の回覧など情報共有を行い、事故防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを整備して、いつでも対応できるようにしている。また、応急手当の方法なども、消防署員より定期的に指導を受けている。緊急時には隣接する施設の看護師からの応援が得られる体制も整備されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	隣接する複合施設と共同で、あるいは事業所単独で、消防署の指導を受けながら年2回は避難誘導訓練を実施している。運営推進会議などを通じて町内の方々等にも災害時の協力について働きかけを行っている。		段差があり、利用者が避難するには危険を伴う非常口があった。夜間など職員が手薄な時にその非常口から避難誘導することを考えると相当な危険と困難が想像できる。利用者の避難口としてどうあるべきか再度検討してほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスについては複合施設の管理栄養士から定期的に指導を受けている。利用者の食事の量なども把握するよう努めている。一人ひとりの習慣や状態などにも配慮しながら、お茶の時間などを通じて水分摂取にも気を配っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の共用空間は、四季おりおりの飾りつけや写真などで、季節感や温かみが持てるような空間作りに努めている。トイレや食堂、浴室などにも危険や不快感が伴うようなものは置かないよう配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、本人が大切にしていた家具や写真などを居室においたり、好みの花を飾ったりとその人らしい居心地良い生活の場をつくるよう支援している。		